

2024.1.11

一般社団法人日本歯科医学会連合
第7回大型医療研究推進フォーラム
プログラム・抄録集

「次世代歯科医療の社会実装に向けた取り組み」

オンライン（ライブ）

令和6（2024）年2月17日（土）13:00-17:00

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F
一般社団法人 日本歯科医学会連合
Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp

「次世代歯科医療の社会実装に向けた取り組み」

オンライン(ライブ) 開催日時: 令和6 (2024) 年2月17日(土)13:00-17:00

【プログラム】

司会進行 大型研究推進委員会 副委員長 日下輝雄

13:00 開会

開会の辞 大型研究推進委員会 委員長 吉田靖弘

挨拶 日本歯科医学会連合 理事長 住友雅人

13:08 フォーラム趣旨説明 大型研究推進委員会 委員 北原秀治

13:10 講演

13:10-14:00

座長 大型研究推進委員会 副委員長 日下輝雄

演題 健康長寿社会への挑戦 ― 最期まで自分らしく生ききるために ―

講師 社会政策課題研究所 所長 江崎禎英

14:00-14:50

座長 日本歯科医学会連合 担当理事 山城隆

演題 小児先天性疾患・難治性疾患の臨床遺伝学:臨床研究の成果と展望

講師 慶應義塾大学医学部 教授 小崎健次郎

14:50-15:00 休憩

15:00-15:50

座長 大型研究推進委員会 委員 宮脇正一

演題 日本薬系学会連合の将来構想

講師 日本薬系学会連合会長, 京都大学副学長 高倉喜信

15:50-16:40

座長 大型研究推進委員会 委員 島田康史

演題 大型研究事業の企画と提案書作成のコツ

講師 大型研究推進委員会委員長, 北海道大学大学院歯学研究院 教授 吉田靖弘

16:40 閉会の辞 日本歯科医学会連合 担当理事 山城隆

17:00 閉会

江崎 禎英 (えさき よしひで)

社会政策課題研究所 所長



抄録

豊かな人生を送るために、「健康」が大切なことは誰もが理解しています。また、健康であるために「予防」が大切なことも誰もが知っています。しかし、「予防政策によって医療費は減らない」ことは、医療経済学の常識でもあるのです。経済の豊かさと医療技術の発達によって、日本国民の平均寿命は延び続け、今や「人生100年時代」が単なる希望的スローガンではない時代が訪れつつあります。

しかしその一方で、高齢化の進展とともに、医療費を始めとする社会保障費は拡大の一途を辿っており、経済活動の低迷と相まって将来に対する大きな不安材料となっています。日本の社会保障制度は、戦後復興・経済成長期に基本設計がなされており、「国民皆保険制度」は、結核に代表される感染症が死因の上位を占めていた時代に整備されたものです。

人生100年時代と言われる今日、最期まで如何に幸せに「生ききる」かが重要なテーマであり、誰もが夫々の年齢や体力に応じて社会の一員としての役割を果たすことが出来る「生涯現役社会」を構築することが求められます。それを実現するには、年齢が進むにしたがって多様化する「健康需要」に対応するためのサービスを創出し、地域資源を活用しながら地域の実情にあった供給体制を整えていくことが必要です。

人生100年時代の健康・医療サービスでは、「病気にならないよう健康管理に努め」、「仮に病気になっても重症化させず」、「治療や介護が必要になっても社会から切り離さない」ことが重要です。この際、オーラルケアの持つ意味は極めて大きなものがあります。こうした変化に伴い、医療全体としても、新たなレギュラトリサイエンスの構築や患者の視点に立ったエンドポイントの設定など、健康長寿社会に相応しい対応が求められるのです。

略歴

学歴

東京大学 教養学部 教養学科 国際関係論 卒業

職歴

1988年 通商産業省 入省（通商政策局）
1991年 大蔵省 証券局 総務課
1993年 通商産業省 産業政策局 新規事業振興室
1995年 通商産業省 貿易局 為替金融課
1996年 英国 留学
1997年 欧州委員会 産業総局（DGIII）

1998年 通商産業省 機械情報産業局 情報処理振興課
2000年 内閣官房内閣内政審議室個人情報保護担当室
2001年 経済産業省 商務事情政策局 情報政策課
2003年 経済産業省 製造産業局 参事官室
2004年 大臣官房総務課 企画官
2005年 資源エネルギー庁 エネルギー政策企画室長
2008年 岐阜県 総合企画部 次長
2009年 岐阜県 商工労働部長
2012年 経済産業省 製造産業局 生物化学産業課長
2015年 経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課長
2017年 経済産業省 商務・サービスグループ政策統括調整官 兼 内閣官房 健康・医療戦略室
次長
2018年 厚生労働省 医政局 統括調整官（併任）
2020年 内閣府 大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）
2021年 社会政策課題研究所を設立 所長に就任
東京医科歯科大学客員教授
藤田医科大学教授

著書

社会は変えられる～世界が憧れる日本へ～（国書刊行会）

小崎 健次郎 (こさき けんじろう)

慶應義塾大学医学部 臨床遺伝学センター

教授・センター長



抄録

シーケンス技術等の革新により全ゲノム解析やエクソーム解析（全遺伝子の翻訳領域のシーケンス）が可能となったために遺伝性疾患の原因究明と新規疾患の同定も進んでいる。既知の疾患概念に合わない患者、いわゆる未診断疾患患者に対して全ゲノム解析やエクソーム解析を行うことにより、遺伝学的な原因の特定が可能となった。この様な未診断疾患の患者の診断を支援し、新たな研究を展開させるために、現在、未診断疾患イニシアチブ（IRUD）と呼ばれる研究が全国研究班として実施されている。現在までに6000家系20000人以上が参加し、詳細な病歴の再聴取、診察を行った上、エクソーム解析や全ゲノム解析が行われている。未診断であった患者の40%以上において診断を確定する事が可能であった。また新規疾患概念の確立や分子診断に基づいた新規治療法の開発が行われており難病診療の質を向上させている。新規疾患が疑われる場合、研究班内の臨床データ・ゲノムデータを含んだデータベースにより国内類似症例が検索され、疾患候補遺伝子や変異の機能的な意義が、研究班と連携する基礎研究者によって検討されている。本講演では本プロジェクトにより同定された新規疾患を例示し、IRUDプロジェクトの概念を紹介したい。患者の相当数は歯科的合併症を有しており、医科と歯科の境界をこえた共同研究の立案の重要性と可能性についても示唆する。

略歴

学歴

1989年 慶應義塾大学 医学部 卒業

職歴

1989年 慶應義塾大学 医学部 小児科学教室 入局

1993年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校 留学（クリニカルフェロー）

1997年 米国ペーラー医科大学 客員研究員

1999年 慶應義塾大学医学部 小児科 専任講師

2003年 慶應義塾大学医学部 小児科 助教授

2011年 慶應義塾大学医学部 臨床遺伝学センター 教授・センター長

専門領域

臨床遺伝学, 人類遺伝学, 小児科学, 先天異常学

所属学会等

日本先天異常学会 理事長

日本人類遺伝学会 理事, 前理事長

Human Genetics Asia 2023大会長

American Journal of Medical Genetics: Associate editor

European Journal of Medical Genetics: Associate editor

認定資格等

日本米国臨床遺伝専門医

日本小児科学会 小児科専門医

高倉 喜信 (たかくら よしのぶ)

日本薬系学会連合会長

京都大学副学長



抄録

2023年7月3日（月）日本薬学会長井記念ホールにて日本薬系学会連合の設立総会が開催され、「日本薬系学会連合」が正式に発足しました。日本薬系学会連合は「薬」をキーワードにした学術団体を束ねる本邦初の連合体であり、同設立総会では会則が承認され、設立が宣言されました。近年、科学の著しい進歩に伴い専門分野の細分化が進んでおり、薬学関連領域でも新しい学会が多数設立され、各学会は活発な学術活動を展開しております。一方で、我が国の科学力の著しい低下や博士課程進学率の低迷など科学界全体で解決すべき課題が山積しており、生命科学と医療の一翼を担う薬系の学術団体も関連学問領域全体を俯瞰して分野を超えた議論の場が必要と考えられます。しかしながら、「薬」をキーワードとして種々の学術団体を束ねた連合体あるいは協議会が存在していなかったのが現状でした。

医療系分野におきましては、既に日本医学会連合、日本歯科医学会連合、日本看護系学会協議会が設立されており、いずれも一般社団法人として医学、歯学、看護学の各領域における課題を学協会の枠を超えた当該領域の共通の話題に関する議論の場を設けております。以上のような状況を踏まえ、日本薬学会および日本医療薬学会のメンバーからなるワーキンググループが設置され、その後、約2年半の準備期間、合計7回の会議での議論を経て、無事「日本薬系学会連合」を設立するに至りました。「日本薬系学会連合」は、広範な専門性を有する薬系学会の相互交流と連携を図り、薬と健康に関する科学及び技術の研究を促進することにより、わが国の薬学の水準を向上させ、医療および健康増進に貢献することを目的としています。今後、日本薬系学会連合は種々の事業を展開する予定ですが、わが国の薬学界の益々の発展に貢献したいと考えています。

本講演では、日本薬系学会連合の将来構想についてご紹介し、日本歯科医学会連合はじめ他の連合との連携の方向性に関する意見交換の場としたいと考えています。

略歴

学歴

1981年 京都大学 薬学部 薬学科 卒業

職歴

1984年 京都大学 薬学部 助手（薬剤学講座：瀬崎教授）

1987年 京都大学 薬学博士 取得

1989年 アメリカ合衆国カンサス大学 研究員

1992年 京都大学 薬学部 助教授

1997年 京都大学大学院 薬学研究科 教授

- 2014年 京都大学大学院 薬学研究科長・薬学部長（平成28年3月末日まで）
2020年～ 京都大学副学長
2022年～ 京都大学学生総合支援機構 機構長（併任）
2023年～ 京都大学白眉センター長（併任）

学会役員等

- 2007年 日本薬剤学会 常務理事・理事（2007-2011, 2014-2016）
2008年 日本DDS学会理事・副理事長
2015年 日本DDS学会理事長
2015年 日本核酸医薬学会主幹事
2017年 日本薬学会副会頭
2018年 日本薬学会次期会頭候補副会頭
2018年～ 日本薬剤学会 常務理事・理事
2018年～ 日本DDS学会顧問
2019年 日本薬学会会頭
2021年～ 日本薬学会顧問
2023年～ 日本薬系学会連合会長

大型研究事業の企画と提案書作成のコツ

吉田 靖弘（よしだ やすひろ）

一般社団法人日本歯科医学会連合 大型研究推進委員会 委員長

北海道大学大学院歯学研究院 生体材料工学教室 教授



抄録

未来歯科医療を支える革新的技術を実用化につなげるには、国の大型研究費を活用するのが近道である。そのためには、「思い込みを捨てる」「常に分析して考える」「絶対に、諦めない！」の3つを意識して臨む必要がある。

思い込みは、人の可能性を狭める。たとえば、「命に関わることが少ない歯科で、大型研究費の獲得は無理」「歯科は、領域が狭いから...」、これらはすべて思い込みである。応募したこともない大型研究費を、なぜ最初から無理と決めつけるのか。研究は、思い込みを捨てて、とことん取り組んだ者のみが勝つ。

思い込みを捨てることができれば、次は研究の企画、準備と提案書の作成である。公募された研究費が何を求めているかを丁寧に分析して臨まなければならない。実際に採択された提案書を基に、個人が取得する科研費との違いなど具体例を示しながら大型研究費の企画と提案書作成のコツを解説する。

大型研究費はすぐには採択されないし、成果も易々とは得られない。未解決の難問に取り組むのだから当然である。実際のところ、基礎研究から実用化研究まで、研究開発のステージを問わず、大型研究費を獲得すれば、必然的に未解決の難問を解決することが求められる。諦めたら、その時点ですべてが終わる。未来の歯科医療を支えるためにも、「絶対に、諦めない！」という強い気持ちで臨んでほしい。

略歴

学歴

1990年 広島大学 歯学部 卒業

職歴

1990年 広島大学 歯学部附属病院 医員（歯科・研修医） 歯科補綴科

1995年 広島大学 歯学部 助手（歯科理工学講座）

1996年 博士（歯学）取得（広島大学）

1996年 ベルギー王国ルーベン・カトリック大学 留学

2002年 岡山大学大学院 医歯学総合研究科 助教授（生体材料学分野）

2010年 理化学研究所 客員主管研究員

2014年 北海道大学大学院 歯学研究科 教授（生体材料工学教室）

2023年 日本歯科医学会連合 大型研究推進委員会 委員長

著書, 論文等

- Yoshida, Y., Van Meerbeek, B., Nakayama, Y., Snauwaert, J., Hellemans, L., Lambrechts, P., Vanherle, G., Wakasa, K. Evidence of chemical bonding at biomaterial-hard tissue interfaces. *Journal of Dental Research* 79: 709-714, 2000.
- Yoshida, Y., Van Meerbeek, B., Nakayama, Y., Yoshioka, M., Snauwaert, J., Abe, Y., Lambrechts, P., Vanherle, G., Okazaki, M. Adhesion to and decalcification of hydroxyapatite by carboxylic acids. *Journal of Dental Research* 80: 1565-1569, 2001.
- Yoshida, Y., Nagakane, K., Fukuda, R., Nakayama, Y., Okazaki, M., Shintani, H., Inoue, S., Tagawa, Y., Suzuki, K., De Munck, J., Van Meerbeek, B. Comparative study on adhesive performance of functional monomers. *Journal of Dental Research* 83: 454-458, 2004.
- Yoshida, Y., Yoshihara, K., Nagaoka, N., Hayakawa, S., Torii, Y., Ogawa, T., Osaka, A., Van Meerbeek, B. Self-assembled nano-layering at the adhesive interface. *Journal of Dental Research* 91: 376-381, 2012.
- Yoshida, Y., Yoshihara, K., Hayakawa, S., Nagaoka, N., Okihara, T., Matsumoto, T., Minagi, S., Osaka, A., Van Landuyt, K., Van Meerbeek, B. HEMA inhibits interfacial nano-layering of the functional monomer MDP. *Journal of Dental Research* 91: 1060-1065, 2012.

学会活動, 受賞等

2014年 IADR/AADR William J. Gies Award

他 国際賞5件 国内賞11件